

2 - 6 江刺地球潮汐観測施設における地殻変動の連続観測 Observations of Crustal Movements at the Esashi Earth Tides Station

緯度観測所

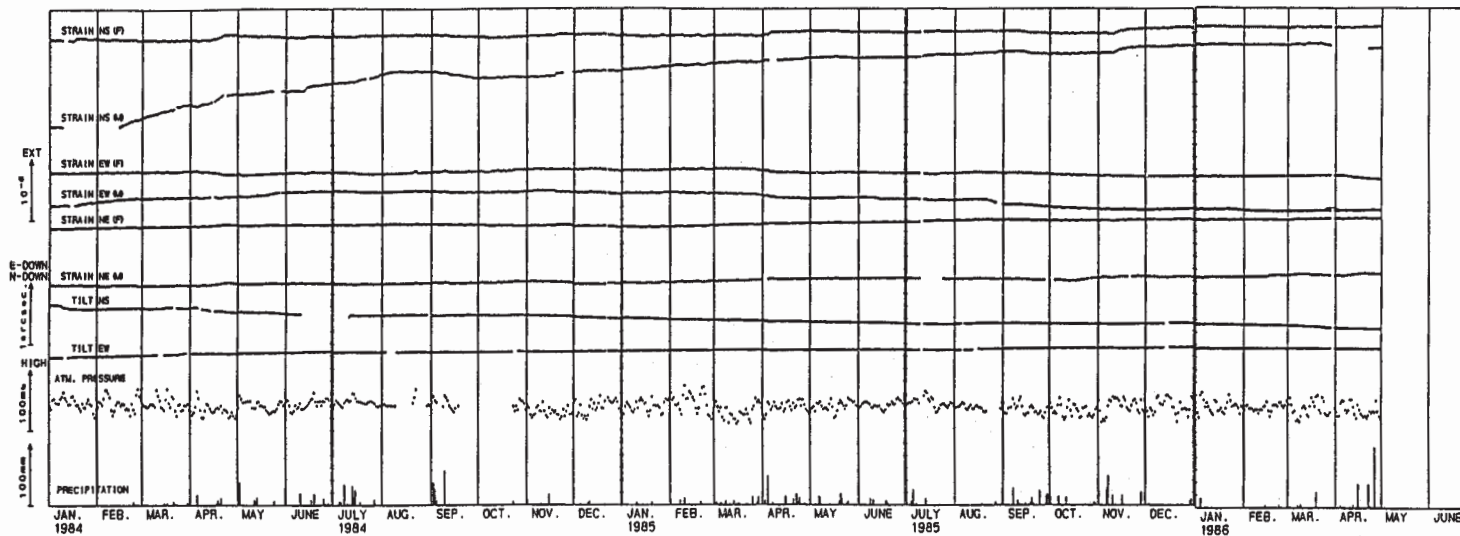
International Latitude Observatory of Mizusawa

前報（第34巻）に引き続き江刺地球潮汐観測施設における歪、傾斜の観測結果を報告する。前回までは、観測開始の1979年6月から現在までの全てのデータを報告していたが、図が小さくて見難くなったので、今回より1984年1月から現在までの観測値を報告することにした。

第1図は1984年1月から1986年4月までの地盤の歪み、傾斜の経年変化、気圧、降水量の日平均値を示しており、第2図には上から求めた主歪、最大剪断歪、および面積歪を示してある。歪観測における(F)は石英管の全区間、(M)は中間点による値を示すものである。なお、1981年1月からの観測値は、江刺地球潮汐観測施設の記録室内で収録した16ビット・データを用いて整理したものである。

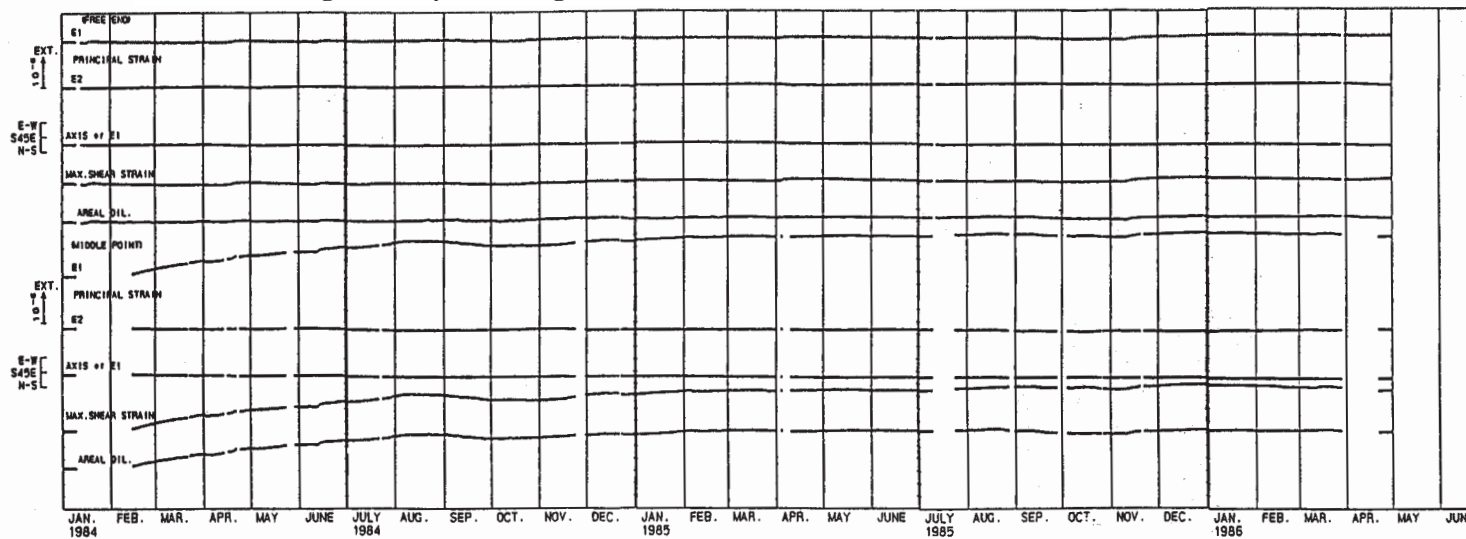
第3図には傾斜ベクトルを示す。1984年1月より比較的急速に南南東下りに傾斜していたものが、次第にゆるやかな傾斜になるとともに、1985年7月頃より若干向きを変え、11月より南下りの傾向を示している。

第4図は、江刺地球潮汐観測施設の入口より約10m東のところに設けたボアホール体積歪計による生の観測値をプロットしたものである。実際の歪量はいわゆる拡大係数（約2.75）で割って求められる。ドリフトは、観測開始頃に比べて半分以下になっている。



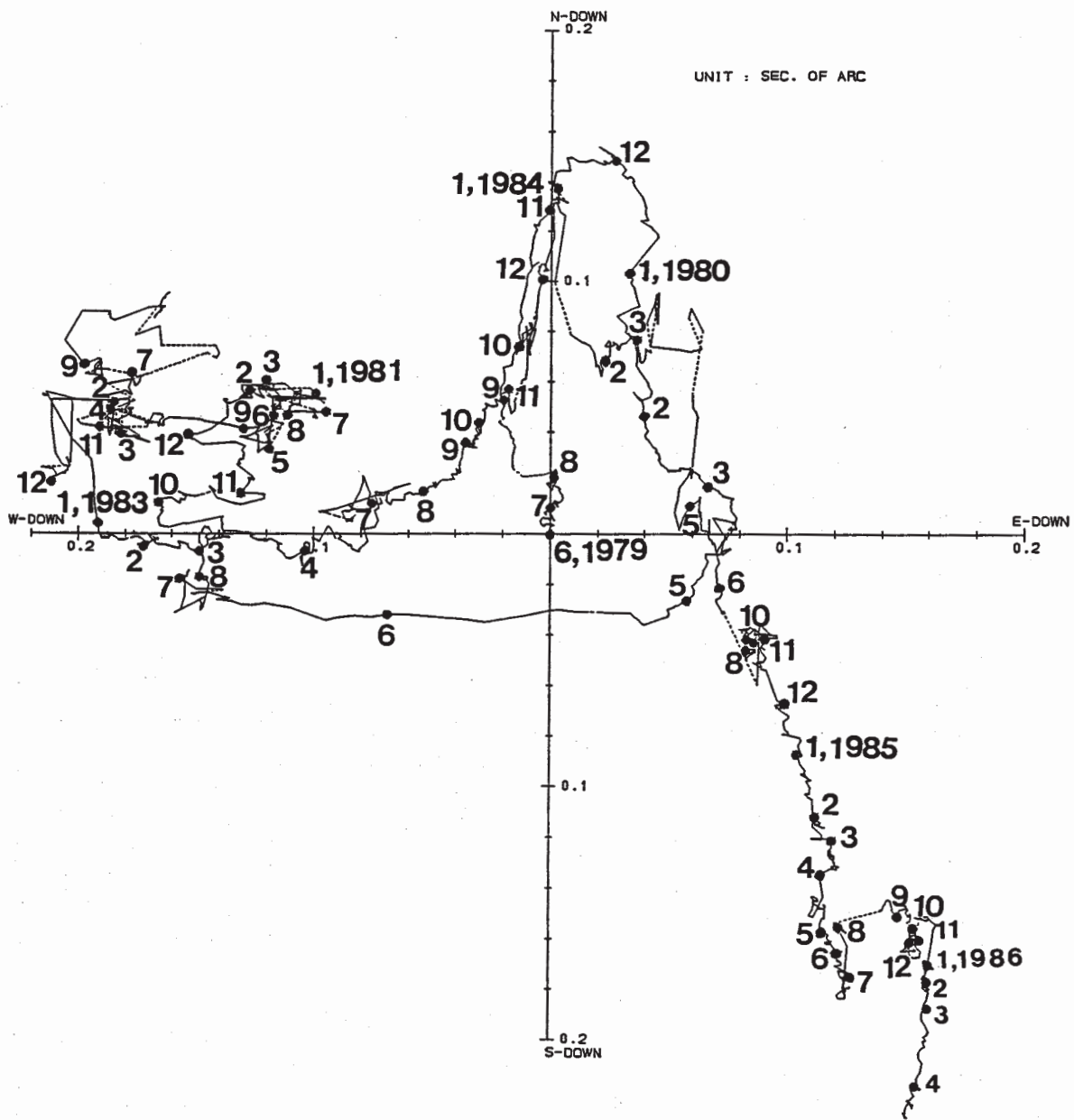
第1図 江刺地球潮汐観測施設における地盤の歪および傾斜の日平均値

Fig. 1 Daily values of ground strains and tilts at the Esashi Earth Tides Station.

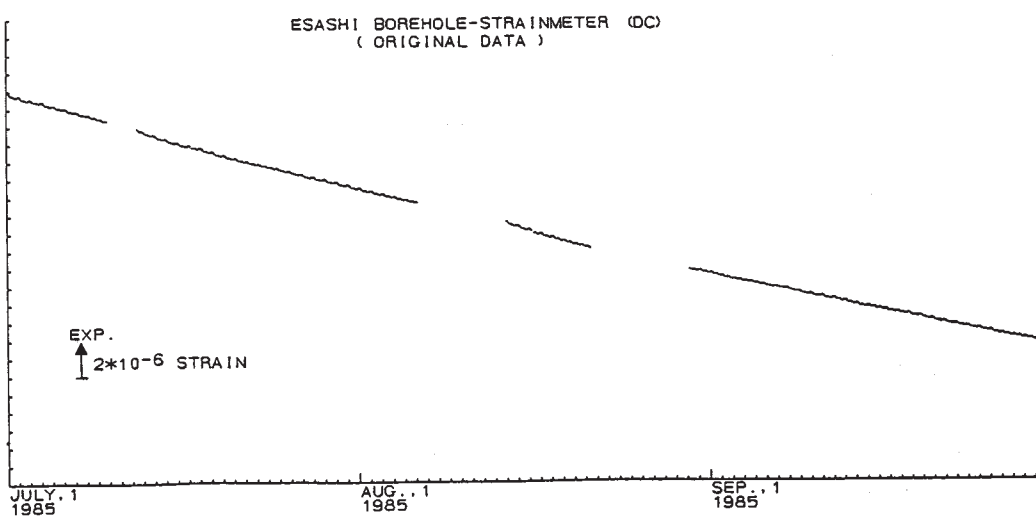
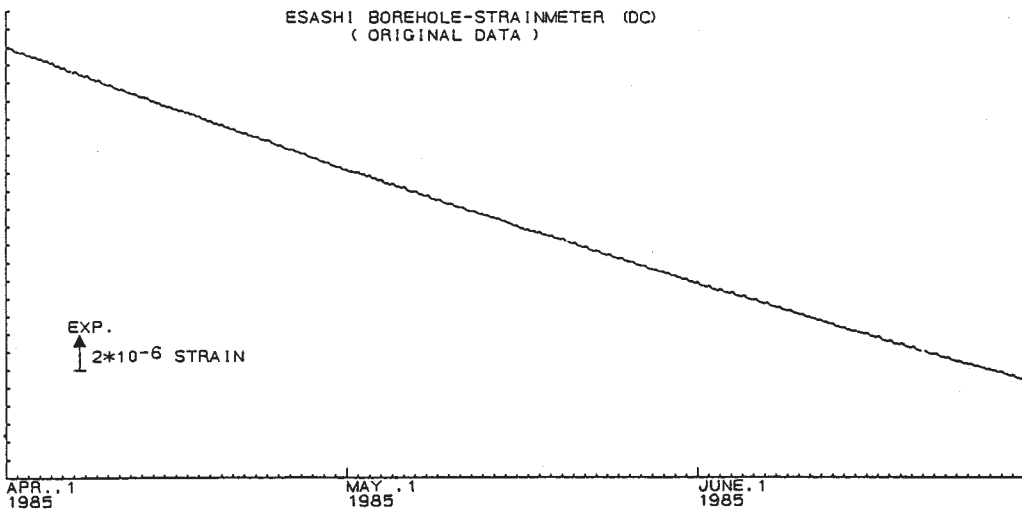
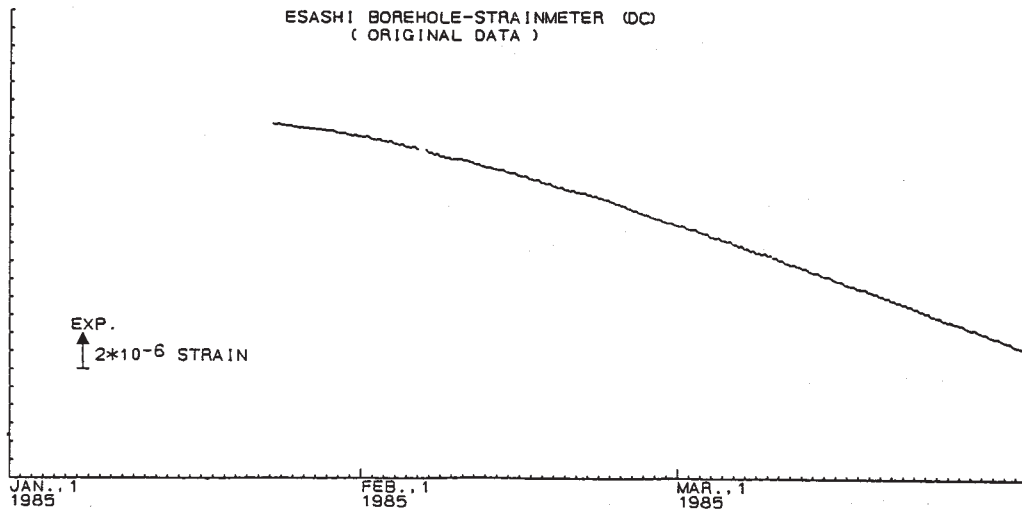


第2図 主歪, 最大剪断歪および面積歪

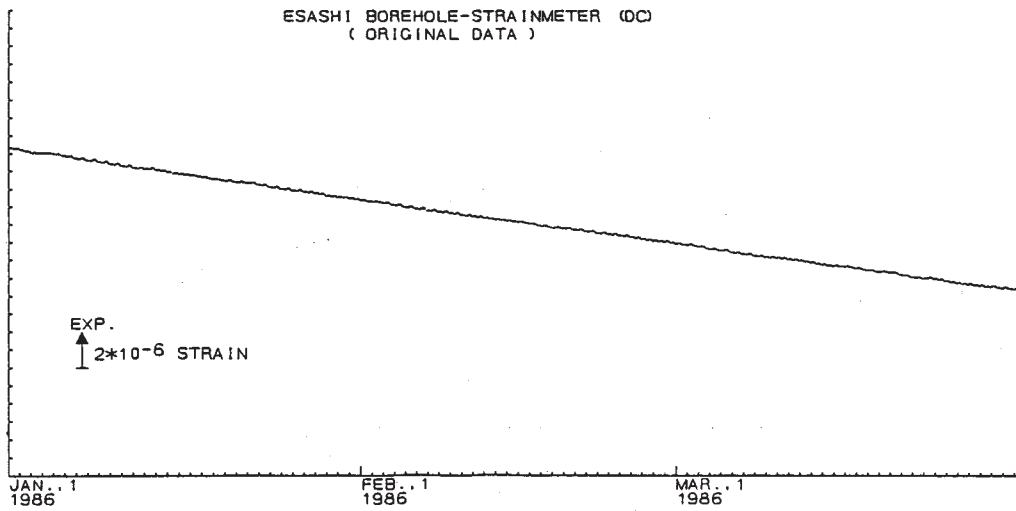
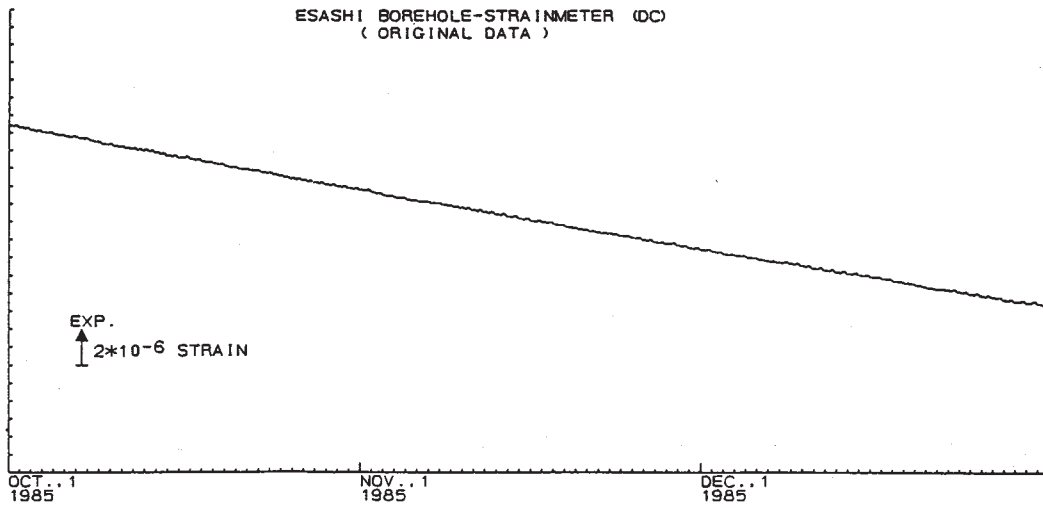
Fig. 2 Derived principal strain, maximum shear strain and areal dilatation.



第3図 地盤傾斜ベクトル図
Fig. 3 Vector diagram of ground tilts.



第4図 ボアホール体積歪計の初期ドリフト
Fig. 4 Trend of the initial strain of borehole strainmeter.



第4図 つづき

Fig. 4 (Continued)